

## 供用開始に間に合うよう工事を完成

静岡県土木施工管理技士会 島田支部  
株式会社 グロージオ  
監理技術者 立林 和樹  
技術者番号 89297

|       |                                    |    |
|-------|------------------------------------|----|
| 工 事 名 | 令和5年度(国)473号 道路改築工事(ロット2・本線道路工その2) |    |
| 工事場所  | 静岡県島田市菊川 地内                        |    |
| 工 期   | 令和6年3月23日～令和7年3月19日                |    |
| 発 注 者 | 静岡県島田土木事務所                         |    |
| 工事内容  | 道路改良                               |    |
|       | ・道路土工                              | 1式 |
|       | ・擁壁工                               | 1式 |
|       | ・防護柵工                              | 1式 |
|       | ・排水構造物工                            | 1式 |
|       | ・道路附属物工                            | 1式 |
|       | ・地盤改良工                             | 1式 |



施工箇所(完成)

### 1. はじめに

当工事(国道473号金谷相良道路)は、国道1号菊川ICから国道473号倉沢IC間に道路を新設する工事である。

今回受注した今工事は、令和6年3月に受注段階の時点で令和6年度中に供用開始したいと発注者から言われており、令和6年度中に工事を完成させ、次の舗装業者に引き渡す必要があった。

しかし、前工事の法面が8月迄掛かるため、8月からの施工を開始し、遅くとも3月上旬までに工事を完成させる必要があった。

## 2. 供用開始までに工事を完成させる為に行った事

### a) 設計照査で実際に施工する際の問題点を詳しく協議した

地盤改良（パワーブレンダー）の施工をする際に、機械の搬入搬出する搬入路の設置が必要であった為、いくつかの工法を検討し搬入路にかかる日数、費用、メリット、デメリットが分かる比較表を作成し、発注者と協議した。

発注者は、なるべく費用が掛からない工法で施工したいとの申し出があったが、共用開始まで早く終わらせる事を考えていた為、日数が掛かっても良ければ費用が掛からない工法で施工するがそれでいいか確認した所、発注者も共用開始を優先させるため、少し費用が掛かる工法であったが、当方の提案した通りの方法で施工をする事が出来た。

### b) 隣接する工事が発注され、進入路の共用が必要になった

供用開始に向け、今工事以外にも工事が発注され隣接する同様の工事が発注され、今工事で資材等の搬入搬出路として使用している工事用道路に構造物を施工する為、隣接する工事との細かな調整が必要になった。

今工事の資材運搬道路として使用していた区域が、新たに発注された工事において本線道路の拡幅工施工範囲に含まれていると知った時、道路拡幅工の施工前に打合せをし、工事中は資材の搬入搬出の無いようにした。

### c) 工事が進むにあたり今まで使用していた工事用道路が使用できなくなった

工事の進捗で、元々2ルートあった工事用道路が1ルートになり、現場へのルートが限られ、約1000m離れた所から資材を搬入搬出する事になったが、こちらにおいても、2ヶ月くらい前に搬入搬出路与道路拡幅工施工の打合せを行い調整した。

### d) 発注者、関連業者との2週間に一度の打合せ

現場着手後は、工事調整を行うため2週間に1回発注者と打合せを行った。出席者は、発注者が協議等に承諾を行う関係者と請負者の担当者であった。

- ・今現場では、仮設栈橋撤去（延長 L=70m、高さ約 15m）があり、どうしても構造物完成後に撤去しなくてはならない工期的に問題があった。この事を発注者に申し出たところ、発注者の回答は撤去工の施工は供用開始後（今後別途工事で発注する）になり、かなり工期的に余裕が出来た。

本来であれば照査⇒協議で発注者に説明資料を作成し提出する必要があった、細かい問題点においても、打合せ時に写真等で詳細な説明を行い、直ぐに対応をしてもらった。

- ・工事が進むにあたり、関連する全業者の打合せが必要な為、11月より発注者側が現場事務所に外向き打合せを行った。

この打合せで関連する業者との調整を行った為、工事用車両の搬入搬出のルートについて、どうしても道路拡幅工の現場を通行しなくてはならない事案に対して、あらかじめ時期、車両の通行量等の情報を共有したことにより、各業者が上手く工事を進める事が出来た。

### e) 隣接する工事と資材置き場の共有

同様な工事を同じ時期で進める為、どうしても二次製品、砕石、砂等のストックヤードが必要になるが、隣接する工事で別々にヤードを確保するのは効率が悪い為、現場に近い同じヤード内で製品等の置き場を確保し両社が共用使用した。

#### f) 社内での情報共有

工事進捗については、現場だけではなく、実施計画工程通りに工事が進んでいるか社内でも問題点等を情報共有し、問題があったところや指摘された事項については直ぐに対応をとり工事を進めた。

### 3. 結果

以上のような事から、今工事はほぼ2月で工事を完成する事ができ、次工事に引き渡す事ができた。

### 4. 終わりに

今工事を受注した段階で3月までに工事を完成出来るか心配であった。実施工程表を作成した段階では工事は完成するが、実際に工事が完成出来るか心配であった。

特に年が明けてから、工事の完成までの工程表を後ろから逆算で作成し、いつまでに各工事を終わらせなくて工期に間に合わなくなるかクリティカルパスを理解し工事を進めた。また、工事施工時期は、降雨が少なく、雨による工事を中止することもなく、無事に工事を進められた事もよかった。

この結果、予定より約2週間早く工事を完成する事が出来た。当たり前の事だが、工程表を作成し、工程に遅延が無いか最低でも1週間に1回は見直し、遅れ等が生じている場合は直ぐ遅れの原因を追究し、見直しをし工程表を作成し修正すれば、工程通りに工事を進める事が出来る事を確信した。